医薬品等の分別における意識調査

株式会社あおい調剤グループ

佐々木 卓哉・有田 明弘
渡邊 範久・勝亦 大介・藤森 将弘・加藤 謙

はじめに

環境問題が指摘される昨今、適正な廃棄物の分別処理が求められている。
今回の調査では、医薬品などが正しく分別、廃棄されているかを調べると同時にその適正な処理を広めることを目的とした。

方法

静岡県浜松市内における、あおい調剤グループ13店舗で当社従業員、来局者を対象とした選択式のアンケートを行った。
実施期間／2017年2月～4月

医薬品等分別についてのアンケート

この度、第70回日本薬剤師会学術大会での発表に向けた、医薬品等の分別に、についてのアンケートを 実施することになりました。恐れ入りますが以下のアンケートへお回答をお願いします。
回答は匿名、初めて見るものもあると思いますがご容赦下さい。

あおい調剤薬局 薬剤師 佐々木卓哉

■回答者情報

性別	□ 男性　□ 女性
年齢	□ 10代　□ 20代　□ 30代　□ 40代　□ 50代　□ 60歳以上
職種	□ 当社従業員または医療従事者　□ それ以外の方

■以下の品目、処理について正しいと思うものを１つ回答下さい

PTP包装		□ 燃えるごみ　□ 燃えないごみ □ 特定品目　□ プラスチック製容器包装（プラマーク） □ 資源ごみ　□ 病院または薬局で回収　□ わからない
錠剤		□ 燃えるごみ　□ 燃えないごみ □ 特定品目　□ プラスチック製容器包装（プラマーク） □ 資源ごみ　□ 病院または薬局で回収　□ わからない
ピロー包装		□ 燃えるごみ　□ 燃えないごみ □ 特定品目　□ プラスチック製容器包装（プラマーク） □ 資源ごみ　□ 病院または薬局で回収　□ わからない
薬の外箱		□ 燃えるごみ　□ 燃えないごみ □ 特定品目　□ プラスチック製容器包装（プラマーク） □ 資源ごみ　□ 病院または薬局で回収　□ わからない
薬のボトル		□ 燃えるごみ　□ 燃えないごみ □ 特定品目　□ プラスチック製容器包装（プラマーク） □ 資源ごみ　□ 病院または薬局で回収　□ わからない
シムビコート（吸入器具）		□ 燃えるごみ　□ 燃えないごみ □ 特定品目　□ プラスチック製容器包装（プラマーク） □ 資源ごみ　□ 病院または薬局で回収　□ わからない
シロップ剤の容器の処理		□ 燃えるごみ　□ 燃えないごみ □ 特定品目　□ プラスチック製容器包装（プラマーク） □ 資源ごみ　□ 病院または薬局で回収　□ わからない
使用済みインスリン		□ 燃えるごみ　□ 燃えないごみ □ 特定品目　□ プラスチック製容器包装（プラマーク） □ 資源ごみ　□ 病院または薬局で回収　□ わからない
使用済みインスリン注射針		□ 燃えるごみ　□ 燃えないごみ □ 特定品目　□ プラスチック製容器包装（プラマーク） □ 資源ごみ　□ 病院または薬局で回収　□ わからない

これでアンケートは終わりです。ご回答ありがとうございました。
※　このアンケートは学術大会での発表以外には利用しません。

浜松市における分別

PTP	プラマーク
錠剤	燃えるごみ
ピロー包装	プラマーク
薬の外箱	燃えるごみ or資源ごみ
薬のボトル	プラマーク
シムビコート	燃えないごみ キャップはプラマーク
シロップ剤の容器	プラマーク
使用済みインスリン	燃えるごみ
使用済みインスリン注射針	医療機関で回収

分別処理

- ●PTP,ピロー包装、薬のボトル、シロップ剤の薬の容器はプラマークごみ（例外あり）。再利用できる熱可塑性プラスチックからできている。
- ●錠剤、薬の外箱は燃えるごみ。紙資源に関しては資源ごみ回収で処理するほうが望ましい。
- ●シムビコートキャップはプラマーク、本体は金属が含まれるので燃えないごみ。
- ●インスリン注射器は燃えるごみで良い。針に関しては感染性廃棄物→病院や薬局で回収

結　果

正しく分別処理できていたのは、PTP包装は42%、錠剤は83%、ピロー包装は55%、薬の外箱は97%（燃えるごみまたは資源ごみ）、薬のボトルは57%、シムビコートは30%、シロップ剤の容器は67%、使用済みインスリンは14%、使用済みインスリン注射針は74%、が正しく分別処理されていた。

【単位：%表示】

	燃えるごみ	燃えないごみ	特定品目	プラスチック製容器包装(プラマーク)	資源ごみ	病院または薬局で回収	わからない	無回答
PTP	35	20	0	42	1	1	0	1
錠剤	83	4	0	1	0	5	6	1
ピロー包装	24	18	0	55	0	1	1	1
薬の外箱	87	1	0	0	10	0	0	2
薬のボトル	24	9	1	57	4	2	1	2
シムビコート	19	30	2	33	2	4	9	1
シロップ剤の薬の容器	21	8	0	67	1	0	0	3
使用済みインスリン	14	14	3	12	0	42	13	2
使用済みインスリンの注射針	2	3	4	2	0	74	12	3

考察

一部を除き、分別処理が十分行われていない結果となった。

原因として考えられるのは、
- ●単純に面倒であること
- ●リサイクルすることによってコストがかかる事（金銭的、資源的）が知られていること
- ●浜松市は転勤や異動してきた方が多く、自治体ごとに分別区分が異なる事で混乱を招きやすい事

などが考えられる。

今後の課題

資源の枯渇や最終処分場のキャパシティといった問題への取り組みとして循環型社会の構築が必要とされる。しかし現在は未だ個人の意識の低さや行政の指導不足といった事で十分に果たされていない。
医薬品に関わる廃棄物は家庭で目にする機会は少なく、広くそれが周知されていないと考えられる。
そのようなごみの処理に関しても指導することが薬剤師の責務であり、口頭での説明や掲示物の利用を通して関心を深めるように努める。

循環型社会とは：有限である天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減された社会

参考文献／・浜松市公式WEBサイト　・日本製薬工業協会HP　・環境省HP　・プラスチック容器包装リサイクル推進委員会HP